

# 農業者年金視察研修報告

7月20日、21日の2日間、新潟県新潟市西区の農業者年金加入推進の取り組みと大規模農事組合法人を視察しました。

## ■新潟市西区農業委員会

初日は、新潟市西区農業委員会を訪ねました。

新潟市は水田の耕地面積や米の生産出荷額においては都道府県規模と同レベルの農業力を持つ政令指定都市で、6つの農業委員会を設置しています。

今回訪ねた西区は商業活動が盛んな地域ですが、米を中心に野菜や茶豆が、また、海岸砂丘地帯ではスイカ等が生産されているなど農業も盛んな地域です。

農業者年金の加入推進活動は、認定農業者を中心に対象者名簿を作成し、農業委員16人と推進員16人を五地区の五班体制に分けて個別訪問を実施しており、訪問で興味を示した世帯や説明が難しかったときなどは事務局職員が同行する場合もあるそうです。

特徴としては、事務局職員とJAの年金担当者や営農相談員の合同勉強会、戸別訪問前の研修を実施して

いることや、JAの地区別懇談会での年金制度説明をしていることなどです。またJA青年部では県農業会議より講師を招き、年金加入を勧める研修も行っているとのことでした。

今後も公的年金としてのメリットなどの情報を農家のみなさんに周知していきたいとの説明がありました。農家の実情を知るJAと農業委員会との連携が、加入推進の軸となって結果に結びついていると感じました。



新潟市西区農業委員会

## ■(農)濁川生産組合

二日目は農事組合法人濁川生産組合(新潟市北区濁川地区)を訪ねました。

組織化は大豆転作組合(昭和62年)で、平成元年に「安定収入のために米を作ろう。」をスローガンに五人で現在の農事組合法人を立ち上げたそうです。

現在の経営状況は、水稲60鈔(うちコシヒカリ46鈔)、枝豆1・5鈔、トマト1鈔(施設・冬季は葉物野菜)で、通年で生産を行っています。ハウストマトは、春・秋の二回収穫する県内有数のトマト産地でもあります。

販売先は、主力のコシヒカリの全量をレストランへ、もち米は自前の加工施設で加工して、JAにお歳暮用として出荷。トマトと葉物野菜は生協やスーパー等と契約栽培をしています。

生産にあたっては従業員を常勤17人、臨時6人を雇用し、担当を稲作と野菜に分け、それぞれ責任を持って仕事をってもらうようにしているほか、研修生も受け入れているそうです。また来年度は新規に2人が入

社を予定しており、人材確保も順調なようです。

現在は減農薬、減化学肥料栽培に取り組んでいて、消費者との信頼を深めながら販売拡大に努めているそうですが、今後は、経営地を大区画ほ場へと集積を進めて作業効率の向上を図りたいとのことでした。

農地を手放す人の多い中、また人材確保の難しい現在、この法人のように積極的に農地と人材の受け皿になれるということは、地域からの信頼が厚いこともさることながら、魅力のある経営体であることも要因ではないかと感じました。

(農業委員 佐々木貢昌)



(農)濁川生産組合